

祝 10 周年特別例会「ふたたび swing me again」

塩屋俊監督の講演会と合わせ、会員以外の人でも入場できます

加古川シネマクラブが生まれて 10 年目を迎えます。10 周年を記念して、できる限りこの地域で映画文化を広める企画を進めたいと考えています。

その第一弾が、『ふたたび SWING ME AGAIN』の特別例会です。今までは、会員を対象とした例会と、一般を対象とした上映会を区別して計画をしていました。これは、あくまで、私たちが映画鑑賞団体であり、映画の上映会は、地域への映画文化の普及活動のための特別なものとして区別することで、会の意思を明確にするためでした。

この考え方は変わっていませんが、この会の会計が厳しい中、10 周年記念事業を実施するためには、例会に、一般の有料の入場者をお迎えする方法でしか、映画上映会ができないと判断しました。

塩屋俊監督をお迎えして、10 周年を祝う盛会にしたいと考えていますので、会員の皆さんには、お知り合いの方をお誘い合わせの上、ご参加いただきますようご案内いたします。

特別例会のお知らせ

■名称／第 55 回例会、10 周年記念特別例会・上映会、講演会『ふたたび SWING ME AGAIN』

■日時／7 月 9 日(土) 映画は、①PM1:30～、②PM4:20～、③PM6:40～。講演会は、PM3:30～PM4:15

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■会員の受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■会員以外の受付／当日入場料 1,300 円、チラシ割引入場料 1,200 円、加古川シネマクラブ会員の同伴者入場料 1,000 円を支払って入場ください。

【例会作品データ】

■タイトル／ふたたび SWING ME AGAIN

■監督／塩屋俊

■原作・脚本／矢城潤一

■出演／財津一郎、青柳翔、陣内孝則、古手川祐子、鈴木亮平、MINJI、犬塚弘、藤村俊二、佐川満男、渡辺貞夫

■データ／2010 年、日本、111 分、ドラマ／ヒューマン



■作品介绍／神戸を舞台にした音楽ロードムービー。

50 年ぶりに仲間と再会するための旅に出た元ジャズ・トランペッターと大学生の孫との姿を、往年のジャズナンバーとともに描いている。

ハンセン病で 50 年以上もの隔離した生活を送っていた主人公を、財津一郎が演じる。犬塚弘、藤村俊二、佐川満男など往年の音楽キャリアのある俳優、さらにジャズミュージシャンの渡辺貞夫が出演するなど、音楽を愛する熟年世代の好演が光る。

【塩屋俊 監督】

1956 年生。大分県臼杵市出身。本名 塩屋智章。慶應義塾大学文学部教育学科卒業。大学在学中に、メソッド演技の中心的理論のひとつであるマイズナーテクニックを学び、ハリウッドをはじめ国内外で多くの俳優経験を積む。以後、テレビ、映画作品等への出演を重ねる。1994 年、「塩屋俊アクターズクリニック」(現「アクターズクリニック」)を設立し、自身の俳優業とともに後進の育成に力を注いでいる。近年は映画監督として、社会派作品を中心に様々な作品を企画・演出・製作している。

『岳 -ガク-』を観に行った

私は山歩きが好きだ。北アルプスにもよく行った。この映画を初日に観に行くことを映画好きの友人に告げると、「小栗旬と長澤まさみ主演で、コブクロの主題歌のあれね。ビックコミック・オリジナルに連載

されてたやん。」と、少し馬鹿にしたような口調で返ってきた。馬鹿にするような言い方をしているクセによく知っていると思った。

どうも映画のことを難しく語るタイプの方は、こういう人気者を並べたキャスティングの映画をよく言わないし、見に行かない。その気持ちもわからないわけではない。

観ているときは、実に楽しかった。映画評論すればいろいろ述べることもできるが、私の好きな山々が画面いっぱいに次から次に現れてくるだけで、実に良い。この作品を作った人たちが、北アルプスが大好きなことも良く伝わってきた。木村大作監督の『**劔岳 点の記**』もそうだったが、私にとっては『**岳-ガク-**』は、それを超えていた。(ハインリッヒ)

6月19日(日)NPO法人シーズ加古川主催による活動 報告会に参加してきました!! in 寺家町JAビル

加古川地域で活動する市民グループが集まって交流を深める会(名刺交換会)に、加古川シネマクラブから山本芳明さんと私と2名が参加しました。初めての参加で、会議式のかなと思いきや、前半は**シーズ加古川**の活動内容(市民のまちづくりをお手伝いする総合的な中間支援組織)をBANBAN放送でお馴染みのスパイシー八木さんを司会に、人気番組「探偵ナイトスクープ」風に、映像を流しながら進められ、その作品の出来映えにフレッシュさを感じ、ある種感動を覚えました(選曲など若者向きだったのは、やはりスタッフの年代によるもの!?)。

そして、後半は、自己紹介をおりまぜながらの立食式名刺交換会でした。(用意されていたサンドイッチはシーズ加古川スタッフの手作りだったそうです!!)

私は容易していただいたシネマクラブのパンフレットを全て手渡す事ができ、サンドイッチを食べる時間もない位、シネマクラブの宣伝が出来たのでは、と自負しております。

しかし、お話ししたのは、ほとんどシーズ加古川のスタッフの方だったので、次回参加できる事があれば、他の活動グループの方とお話しがしたいと思いました。

エコ対策の室温で、いい汗(!?)をかき、よくしゃべり、有意義な時間をもてました!! (せん)

協力事業の報告

6月21日(火)に、加古川総合文化センターで兵庫県映画センター主催の『**武士の家計簿**』上映会に協力しました。入場者数が約260人とやや少なかったということです。

この地域のイベント関係者の方と話す、近年の

可処分所得の減少と、震災の自粛ムードのため、人が集まりにくくなっているとのこと。

街に活気が無くなるのは寂しいので、時間と財布に少しの余裕があれば、街に出てみたいと思います。

前回例会の報告

5月17日の例会では、韓国映画の『**冬の小鳥**』を鑑賞しました。施設に預けられた少女の周りで起こる出来事と少女の気持ちを淡々と描いた作品でした。

アンケートでは、「たいへんよかった」6件、「よかった」2件と、意外に受け入れられたようでした。自由記入欄には、「この映画で受けた感想や人生の感銘の部分」、「映画のつくりに関わること」、「この会に対する励まし」、「映画からいろいろなことを知ることができる感謝」、「ふだん観る機会少ない良質の映画選定の要望」など、意見を添えていただきました。

参加者数123人。

運営状況

トホホ……

会員数伸び悩みによる会費収入の減少と、補助金など他の収入も少なくなったため、4か月前くらいから赤字体質になったことは、総会や前回のニュースでお伝えしたとおりです。

会計を担当する事務委員としては、会計が深刻になる前に、毎回のニュースのこの欄で、現状をお伝えしておきたいと考えました。支払いが数か月後のものもあり、厳密な収支でなく、現在の凡その見込み収支ですが、「トホホ」の後の「・」の数に1万を乗じた額、つまり今回の場合、「今は5万円くらいの赤字なんだ。」として見ておいてください。

現在の会員数では、1回例会を開催するたびに約2万5千円の赤字が増えることとなります。会員数が200人に戻るまでは、特別例会の一般入場料、寄附金、補助金などの収入をいろいろ探して、耐えて何とかしのいでいこうとしています。

会員の皆さんには、この会のことをクチコミで宣伝いただきますようお願いいたします。(事務委員、宮本)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数164人(5月17日現在)